

日本保全学会 第23回 保全セミナー

2024. 2. 26 (Mon.)
9:50~17:15

<会場> **KFC Hall & Rooms Room 101~103**

東京都墨田区横網1-6-1 国際ファッションセンタービル10階

都営地下鉄大江戸線「両国駅」(A1出口) 徒歩0分 / JR総武線「両国駅」(東口・西口) 徒歩約7分

& **オンライン(Zoom) 同時開催**

<テーマ>

社会貢献に向けた原子力発電所の活用策と目指すべき姿 — 古くて新しい保全の課題解決に向けて —

GX脱炭素電源法が可決・成立し、原子力基本法の改正により「原子力発電の活用は国の責務である」ことが明記された。また、原子力関係閣僚会議において、既設原子力発電所の最大限活用に向けて、設備利用率向上のため安全性確保を大前提に運転サイクルの長期化、運転中保全の導入及び定期検査の効率的な実施に取り組むことが決定された。

社会貢献に向けて原子力発電所を最大限活用するには、再稼働発電所の増加に加え、各発電所の設備利用率の向上が必須である。米国では、安全性の向上とともに大幅な設備利用率の向上を達成し、両者は両立することを実証している。我が国において、米国のこの好事例を参考に改善努力を継続してきたが、結果としては保全上の主要課題は一向に解決されず、現在もほぼ同じ形で残った状態である。

福島事故以降12年が経過し、新規制基準や新検査制度が施行された新しい時代を迎えており、現状を打破・刷新するべく、先を見た議論を開始すべき時が来ている。原子力発電所の効率的な運用に対する課題を抽出し議論することにより、「原子力発電所の活用策と目指すべき姿」を明確にし、古くて新しい課題解決への取組みを加速することとしたい。

I. 原子力発電所の稼働率向上に向けて

- (1) 稼働率向上に向けた保全活動の実現に向けて……………岡本 孝司 氏(東京大)
- (2) 稼働率向上に向けたこれまでの歩みと今後の取組みへの期待……………平岡 英治 氏(東北大)
- (3) これまで稼働率向上が進まなかった原因の分析と改善提案……………青木 孝行 氏(東北大)

II. 原子力発電所の稼働率向上のこれまでの取組みと今後

- (4) 稼働率向上に向けた海外の事例……………澁谷 武真 氏(JANUS)
- (5) 長期運転サイクルの導入に向けて……………横村 忠幸 氏(日本原燃)
- (6) リスク情報を活用した運転中保全(OLM)の適用範囲の拡大について……………富田 邦裕 氏(ATENA)
- (7) 保全最適化への取組みと組織の近代化……………尾崎 友彦 氏(中部電力)

III. 再稼働の経験から得られた知見・教訓

- (8) 再稼働にあたっての問題点とその対応策……………上村 佳広 氏(九州電力)
- (9) 高浜 1、2 号機の再稼働に向けた取組み……………志和屋 裕士 氏(関西電力)

IV. まとめ……………堂崎 浩二 氏(東北大)

<申込方法> 日本保全学会ホームページよりお申込みください。
(申込フォームは1月中旬に公開予定。HP及びメルマガでお知らせします)

参加登録締切 **会場参加** ・ **オンライン参加** **2月22日(木)**